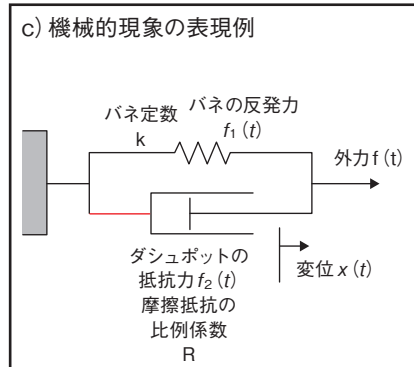


お詫びと訂正

『Clinical Engineering』2022年3月号 (Vol. 33, No. 3), 284ページ図2におきまして、誤りがありました。読者の皆様に謹んでお詫び申し上げますとともに、以下のように訂正いたします。

284 ページ図 2



2022年2月25日
学研メディカル秀潤社

お詫びと訂正

『Clinical Engineering』2022年3月号 (Vol. 33, No. 3), 284～285ページにおきまして、誤りがありました。読者の皆様に謹んでお詫び申し上げますとともに、以下のように訂正いたします。

284ページ 右段 上から7行目

誤 $\Delta\theta(t) = \underline{K} \cdot \Delta q \cdot (1 - e^{-t/T})$

正 $\Delta\theta(t) = \underline{(1/K)} \cdot \Delta q \cdot (1 - e^{-t/T})$

285ページ 左段 上から18～23行目

誤 この式を

$$R \cdot dx/dt = k \cdot x - f(t)$$

と書き直せば、流体系や熱系で示した式と対応

した形になっている。したがって、変位は

$$x(t) = k \cdot f(t) \cdot (1 - e^{-t/T})$$

となる。

正 この式を

$$R \cdot dx/dt = f(t) - k \cdot x$$

と書き直せば、流体系や熱系で示した式と対応

した形になっている。したがって、荷重の変化分を ΔF とすれば、変位は

$$x(t) = (1/k) \cdot \Delta F \cdot (1 - e^{-t/T})$$

となる。

285ページ 右段 上から8～10行目

誤 $i_R(t) = \underline{R} \cdot v_o(t)$

で次第に増加する。

$$i(t) = i_R(t) + i_C(t) = \underline{R} \cdot v_o(t) + Cdv_o(t)/dt$$

正 $i_R(t) = \underline{(1/R)} \cdot v_o(t)$

で次第に増加する。

$$i(t) = i_R(t) + i_C(t) = \underline{(1/R)} \cdot v_o(t) + Cdv_o(t)/dt$$

2022年3月30日
学研メディカル秀潤社